

巴里市公立産院、托兒所、小兒病院、 感化院

宇佐美 敬

一、産院

巴里市公立の産院は同市衛生局に屬す。現在百五十名收容してゐるといふ、此種は巴里市に一つであるが他に小規模のもの同市内に何百といふ多數ありて、貧しき産婦の爲めに備えられてあるといふ。設備完全、決して立派ではないが掃除が行きとよき清潔である。患者の寢具等も舊くはあるが洗濯がしてある。看護婦たちがまた非常に質素で細い縞の木綿の着ものに白のエプロンをつけて頭に白布をかけてゐるがそれ等の白いきれに、細

かくしきしが當つてゐるのを見て感心する。

通常産室は廣大で室の兩側に寢臺が十二臺づゝ並び、中央を小さい車で食事を運びまた其處に種々の必要品が並べてある。各寢臺のすその方に赤ちやんの小さい寢臺があつて可愛い、小さい人がすや／＼とねてゐる。こういう室が四つ、その他お産が後れて難産の人の室が十人一室で二三室ある。手術をして子供を産ませる人の部屋が一人室で可なり澤山ある。難産の爲め貧血を起した人、また神經の興奮した人、些精神に異狀を來した人の部屋はずつとはなれた別室になり、静かなやゝ

薄暗い室があてゝある。嬰兒の營養不良の者は母親の部屋から離して湿度の調節を嚴重にした別室にすつかり布で周圍を包んだ籠の中にいれてある。これで育つかと思ふやうな赤ちやんが十人位居た、西洋の婦人はお産の時泣くといふ話を聞いて居つたが、實際手術臺にのつておいゝと泣いてゐる側を通つていひやうのない氣の毒さを感じた。

此處へは出産前二週間にうけいれられ、産後二週間で退院といふ事である。手續としては別に産婦の診察所が院内にあつて其處は午前の九時から十二時まで午後は二時から六時まで診察があるのでもその結果誰でも入院が出来る。毎日百五十人位来る少なくとも百二十人は来るといふ。尙産後三ヶ月間母親と共に乳兒を保護し預る場所が別にあるといふことである。

かく産兒産婦の保護の行き届いてゐることはさ

すがにフランスであると思つた。尙この國は非常に難産の婦人が多いといふ事を看護婦が語つてゐたが母體の無理といふこともあるが流行の爲めに婦人が種々非衛生的の服裝をするといふことも原因するであらうといふことである。

二、托兒所

これは市の救済局に屬する私の見たものは可なり広い場所で建物も廣大約六十年前の建築といふことであるが尙増建しつゝあつた。小兒診察所附屬し、嬰兒と、五六歳より十二三歳までの二個所に分れて診察所あり、此處には子供の病氣に限らず健康診斷的に診察をうけに來る母親もあり、診察は午前中にて外科・内科・耳鼻科・眼科、と曜日がわかれてゐる、母親は診察を受けたい日を選んで子供をつれて來る、一般病人の外に傳染病の懸念あるものは直ちに別室にて驗査し、いよゝゝ傳

染病と決定すると直ちに傳染病院に送る。入院を要するものはその手續きをすぐとらせ、小兒病院にうけいれる、診察をうけたものは一々診断書を貰ひ次に来るまでの容態を記して必ず持參する事になつてゐるといふ。

托兒所の方は此處に預る分は母親が病氣中のものが主で捨て子もゐる、預る年齢は嬰兒から十五六歳まで、十五歳までとしたのはそれ以上の子供ならば母親が留守でも何かの働きが出来また留守居も出来るといふわけである。人手のかゝらぬ

ほどのもの満六歳から十五歳のもの一つ棟に、その食堂、診察所、勉強所、遊戯室、寢室を見る。

男女は別棟で、何れも光線のよきはいるきれいな寢室にきれいなベットが兵營の様にずらつと並んでゐる。十歳以上の女兒が掃除を手傳つてゐるのを見た、皆粗末ではあるがさつぱりした木綿の綿の着物を着てゐる、勉強室には日本の小學校の

教室のやうに机が並び、地圖がかけてある、學課を先きに進める程度にはないが復習をさせる事になつてゐる由、六七歳位の子供たちが遊んでゐた。食堂もきれい、食器は皆アルミニウムである。

外の運動場も廣々と、美しい花壇があり、涼しそな樹陰にベンチが置いてある、其處に三人ばかりの女兒が腰かけて話をしてゐたが、その中の一人は捨て子だといつて案内の婦人が話してくれた。現在此處に約三百人づゝの男女兒を預つてゐるといふ事である。

嬰兒の分を見る、生後(一週間以内)直ちに預つたものもゐる、一ヶ月、半ヶ年、一年、皆わけて世話をしてゐる、一室に五六十の赤ん坊が可愛いベットにねてゐる、丁度食事の時間だといふことであつたがあちらでもこちらでも泣いてゐる、皆あなかにすいたのであらう。母親に代つてかうして育てるフランスの婦人たち、何れも親切をう

そして健康そう、可愛くてたまらぬといふ様子で赤ちゃんをだいてゐる人もある。お乳は人工乳以外に乳母も雇つてある、六七人ゐた。乳母は別室に我子と一緒にゐる。一日に數回看護婦の手によつてお乳を搾る、それは生後一ヶ月以内のものは是非、その他發育不良のものに與へる。營養不良のものまた特に光線療法をうける必要のあるものだけ硝子張の明るい室に十數人居つた、尙他にやゝ虚弱の幼児の爲めに、一室三人位の特別室がありそれが八室ある。

看護婦の勤務時間を聞いてみる。

午前六時——午後三時半（第一回の勤務者）

午後二時半——午後十一時半（第二回の勤務者）

午後十時半——午前七時（第三回の勤務者）

交代時の一時間の重なりは引きつぎと同時に二人で互に受持乳兒の状態につきて研究し相談する爲めといふことである、寸のすきのないやうに働い

てゐる看護婦たち、質素なさつぱりとした服装、快活に愉快そうに些の疲勞の色を見せてゐないところが心地よい限りであつた、この中に捨子も五十人位ゐるといふことである、全體で百五六十人預つてゐるといふ。

捨て子に就て聞くとところを記す、若氣の至りの過失から子供を産む、それを此處につれて來る、するとすぐそれを預る、預るといふより其時を期して全然母子の縁を絶ち再び我子として省ることを許さぬ、此處では三歳まで育て四歳から田舎に里子に預ける、適當の里子に出せぬものは十五歳まで他の預り子と同様に此處で暮させる、その間に讀み書きを教へる、里子になつたものは第二の親の許に二十一歳まで育てられ、それから自由になる。其間縣は適當の補助を與へまた時時役人が廻つてゆきその子の状態を見る、第二の親の許を去り自分の産みの親をたづね求めるものもあらう

といふ、餘りにも悲惨な實話である。尙院長の語るに、此院は縣の費用で維持されてゐるが此種のものゝは國家的事業とするのが本統であらうと思ふといつて居られた。自然裕かな縣では數も多くの設備もゆきとよく、佛國では巴里が一番數が多い、此處は收容限度が四百人で現在その位居る、巴里の預り子が現在三萬人、佛國全體で十五萬人、その中捨て子が十年前は五千人(毎年)ありしが現在は千七百人に減じてゐる、院長がこの最も悲しむべき運命のもとにあかるゝ捨て子を少しでも減じてゆきたいと種々考慮し現在はいかういふ方法をとつてゐるといつて語られたのは、母親が我子をつれ

最も悲しい訴えをして來る時、まづその母子を郊外の静かな所に衣食を與へて住ませ、その間相當の仕事と與へていと我子を育てさせてゐる中に二ヶ月位の間に母親の愛が自然に育まれて、我子とわかれ住むに忍びずなり、その子を育てる爲め

に、眞面目な生活にはいるといふ事になる、その結果の減少なりといふ。母の家」といつて常に五十人から六十人の母親が其處にあるといふ。公費を以てかくばかり行き届いた子供の保護を中心とした事業のなされてゐるのはさすがにフランスだと思つた。英國のダアクター・バーナードのウイレッヂハウスを始め幾多の此種の仕事が個人の仕事或は慈善團體の仕事としてなされてゐるのと思ひ合せて種々考へさせられる點が多い。

三、小兒病院

澤山ある中の最も大きいのを一つ見る。實に廣大な建物。毎日午前二時間午後二時間の診察時間に四百人から五百人の子供が診察をうけに來、入院患者が六百人以上あるといふ、此處は至つて官僚式で許可證を持つていつたのに、手が少ないからといつて快く案内してくれそうもなかつたの

で、普通患者として入院の幼児のところだけを見
せて貰ふ。受付子はそんな風であつたが、次から
次と案内してくれる人が代る。その人たちはやは
りフランスの氣輕さと親切をあらはしてくれて愉
快に一巡みせて貰ふ。此處には若いお醫者さんが
研究に來て居られ、一週何回か各専門の大家先生
が診察され、講演があるといふ。小兒の病院の事
ゆゑ小兒特有の傳染病が多く、それ等が全然別棟
にわかれ實に／＼廣いものである。

四、感化院

巴里市の郊外可なり遠方にある、キツスイの巴
里の子、地理に明るい御自慢の運轉士も、今日は
ほと／＼閉口したほどむづかしい場所にある、七
十丁歩からの廣大の地積を占め森林を境のセーヌ
河までつゞくところ。やつとの事で門までたどり
つく、其處に數人の院兒らしい元氣そうな男兒が

男の先生と一緒に土手を築いてゐる、先生が私を
見て「汽車で來らるゝと思はれ院長が迎への人を
停車場に出された、車では大變でしたね」とここ
やかにその男兒の一人を案内につけてくれ、院長
の居らるゝ建物の方に導く、前回に記したが、佛
國はかうした種の參觀は中々手續きが面倒であ
る。最初にそれ／＼の役所で許可證をうけ、更に
その觀やうとする局の許可をうける、ことにこの
感化院は、最初市の學務課にゆき、更に司法省に
ゆけとの事であり、それは間違て内務省だといふ、
するとそれが日本の少年刑務所のやうなものを紹
介される、私は是非見たいと思ふこの感化院參觀
に到達する爲めに、可なりの道程のあつたことを
今これを書きながら思ひ起す。

院長に喜び迎へられてすつかり用意してあかれ
た種々の刷もの、また特にタイプライターで打た
せたものを下さる、此處にあづかる子供の種類は

捨て子の中の性質のあしきもの、家庭からの直接の申込みと學校からのとであるが、勿論皆普通兒ではない。もとより輕重はあつても精神的缺陷のあるものばかりであり、預つてからは餘り家庭と交渉せぬやうにし、家にかへしてその日の中に歸院するやうにしてあるといふ。その鞏正法はたゞ環境の整理だけのやうに思はれる。院長はいつて居られた、常に溫情を以て育て、彼等をして自ら非を悟らせるやうにし、更に刑罰をほどこす事はないと、食事など十分に與へる、野菜は皆畑から(勿論院兒が指導の先生と一緒に栽培するもの、大仕かけの養鶏もして卵を澤山得てゐる)ケッチンにいつて見ると大きな牛肉が鈎にぶら下つてゐた。これ等の肉は市の救濟局から廉價に送つて來るといふ。幾棟かに建ものがわかれて居り、階下は、作業部屋になつて居る、木工、金工、その他の細工部屋、二階が寢室になつてゐるが、これを

見たとき、やはり不良兒の特別な看視のなされてゐる事を思つた、一人一人區ぎつた箱の様な小さい部屋になつてゐて二三十人に一人の監督がつき、各室を一せいにロックするやうになつてゐる、夜中に一人が何か病氣にでもなつて先生に用のある時はベルをならす、すると先生がその部屋だけをあけて下さる。各部屋がきれいに片づき掃除がしてある。炊事場につゞいて食堂があるが實に廣くて心地よきもの、洗濯部屋、衣服の裁縫修繕をする部屋、此處に十人位の婦人がゐて電氣仕掛で大がりの洗濯し、靴下のつくりひから、衣服の裁ち縫ひをしてゐる。シャツは一週一回とりかへることになつてゐるといふ。ストックがあつて其處には實に整然と新調の洋服、洗濯した靴下、ハンケチ、タオルのやうな細いもの、それ等が新しいものと區別して心地よく整頓してゐる、子供は七歳から十三歳までは普通教育を施しその上は他

の學校に送るものもありまた十七八歳まで種々の仕事を學ぶ（前述の教室で）それからそれ／＼の働きに出る。ガードナーになるものもあるといふ。廣い庭園で樂しそくに草花の手いれをしてゐるもの、芝を蒔つてめるものを見た、現在三百人の男兒を預つてゐるといふ、女兒の爲めにはかうした公立のものはなく私立が二三あるといふ事である、決して監視の眼を置かぬがまだ一人も逃げたものがないといふ。

學校教育をしてゐる教場に案内されたが一教室四十人位日本の小學校と同様、學校の成績は普通小學校に更に劣らぬといふ事である。その時であつた、ふと廊下の向ふからにこ／＼しながら可愛い十歳位の男兒が来る、上品な顔の表情の何處にも不良のかけも見えぬ、しかし服装は他の院兒と同じである。私は院長にあの子も院兒かとたづねたときあれは私の長男だと答へられた。あゝこ

れだなと心の底から大きく首肯いた事であつた。この眞剣さと強き自信とがあつて初めて出来る事業であらう、たゞねるときと食事の時、或一定の運動時間だけ家に歸らせる」と院長は語られた。

宗教教育として毎日曜キャンリツクとプロテスタントの牧師を交互に聘して説教を聞かせる事にしてあるといふ、普通教室、仕事部屋の他にきれいな休養室があり、病室もある、理髮室もある、靜かに一人あることを要するものゝ爲めの特別のきれいな部屋もある、しかしこの病室のふさがる時はめつたにない、と院長がいつて居られたが、こんな空氣のよい所に規則的の生活をし適度の勞働をしてゐては病氣にもめつたになるまいと思はれた。此處からそれ／＼の仕事に雇はれたものゝ成績は非常によく、最近全く雇主からのことがない、若し何等かの故障で解雇されたものゝ爲めにはやゝ離れた別棟の寄宿舎がある、ごく僅少の費

用で止宿が出来る、つまり一生涯たよることの出来る組織になつてゐる、先生、事務員、全部構内に住んでゐる。構内といつても何しろ廣いもの故、はるかにポツ／＼と赤い屋根の格好のいゝ家が遠くに見える、果樹園、栽園、と案内されながらちとらほらと働いてゐる小さいかげを見て、三百餘の

小さい友の上に祝福を祈つたことである。院長の親切を謝し辭そうとすると、うで一ぱいに美しい花や、珍らしい苗を二人の男兒が嬉しそうにかゝへて私の車の中にいれてくれた、その時は、メンシイのあいさつがのどにまつて出なかつた。

宇式かん女史の光榮

倉橋惣三

天皇陛下 先般静岡縣下へ民情御視察の爲行幸遊ばされた際、同縣廳に於て、特に縣下各方面の功勞者に對し拜謁を賜はつた。その中に、宇式かん女史を加へられたことは、同氏の光榮であると共に、幼稚園教育界の一大慶事といはざるを得ない。其の日は五月二十八日であつた。教育功勞者として特別拜謁を賜はつたもの五名、宇式女史は其少數の光榮者の一人であつたのである。他の諸氏も、いづれも久しく教育界の人として、貴重なる功勞者の方々であるが、わが宇式女史は、終始幼

幼稚園教育界の人として、その功勞をお認め戴いたのである。女史は久しく静岡市立静岡幼稚園長であつたが、後、その職を現任の浦野みち氏に譲り、自らは私立櫻花幼稚園を設立して、愛媛縣林成子氏と共に、その事業に當つてゐられる。實に、静岡縣内に於ける保育界の古老たるのみならず、我國幼稚園教育の大先輩である。殊に女史の圓熟せる人格は、縣内保育界は勿論、静岡市内一般から尊敬を受けてゐられる程である。此の度の光榮も誠にその所以あること、言はざるを得ない。

尙ほ、此のことに關して、われ等の特に感ずるところは、女史を通して與へられた幼稚園教育の光榮である。幼稚園教育の人として、特に斯くの如き光榮に浴せるは多分宇式女史を以て初めとするのであり、幼稚園教育界の偉大なる事實である。光榮に對する感激も當然われ等の頌み受くる處である。余は、女史との久しき懇親の上から、之れを喜ぶと共に、幼稚園界の一人として、更に、廣き意味の欣慶を禁じ得ないのである。

女史正に七十歳、尙赫灼として、温容豊なるものがあるが、尙一層自愛加餐、愛の徳を以て我國幼稚園界の後進を鼓舞せられんことを祈つてやまない。